

『万葉植物文化誌』訂正表

- 10 ページ 下段 19 行目
(誤) (奈良町末期) ↓ (正) (奈良朝末期)
- 13 ページ 上段 5 行目
(誤) 植中国本草で物図が ↓ (正) 中国本草で植物図が
- 23 ページ 「あさ」見出し 1 行目
(誤) アサ科 (Moraceae) ↓ (正) アサ科 (Cannabaceae)
- 85 ページ 下段 12 ～ 13 行目
(誤) インデイカ種のことである ↓ (正) インデイカ種のうち粘らないものをいう
- 86 ページ 下段 11 行目
(誤) 糯米であってウルチ型の ↓ (正) 糯米であってしかもインデイカ種の
- 121 ページ 下段 1 行目
(誤) 陝西省から河南省の一带 ↓ (正) 『詩經』國風・秦風「終南」および同・陳風「墓門」のこと
- 121 ページ 下段 2 行目
(誤) 陝西省岐山県西南の一带 ↓ (正) 『詩經』國風・召南にある詩「標有梅」のこと
- 138 ページ 下段 3 行目
(誤) イゲサが栽培されていたことを示唆する ↓ (正) フトイが豊産したことを示唆する
- 146 ページ 上段 15 ～ 18 行目
(誤) Shobu がハナシヨウブ アヤメである ↓ (正) Shobu は屋根に生えているから、湿草のシヨウブではなく、似た名前のハナシヨウブかアヤメの誤認であろう。この場合、より乾燥した環境に耐えられるアヤメの可能性の方が高い。
- 148 ページ 「かし・しらかし」見出し 2 行目
(誤) 嚴櫃が ↓ (正) 嚴櫃が本
- 334 ページ 「たまはばき」見出し 4 行目
(誤) ゆらく玉の ↓ (正) ゆらく玉の緒を
- 353 ページ 「つき」見出し 1 行目
(誤) ニレ科 (Ulmaceae) ↓ (正) ニレ科 (Ulmaceae)
- 364 ページ 「つた」見出し 2 行目
(誤) イタバカズラ (*Ficus sarnentosa*) ↓ (正) イタバカズラ (*Ficus sarnentosa*)
- 368 ページ 上段 18 ～ 19 行目
(誤) 花茎が出て、植物は見当たらない ↓ (正) さらに茎が出るというから、ユリ科ツクバネソウとその仲間もこの形態的特徴をもつので、該当するといつてよい。
- 382 ページ 上段 18 ～ 19 行目
(誤) 熱氣(各種のひきつけ)・諸痢(熱を伴う気) ↓ (正) 熱氣(熱を伴う気)・諸痢(各種のひきつけ)
- 437 ページ 「ぬばたま」見出し 2 行目
(誤) ユリ科 (Liliaceae) ↓ (正) アヤメ科 (Iridaceae)
- 472 ページ 「ひえ」見出し 2 行目
(誤) 打ちし田に は数多に ↓ (正) 打ちし田に 稗はは数多に
- 485 ページ 下段 1 ～ 2 行目
(誤) 李時珍の説明と一致する ↓ (正) 李時珍の説明と一致するが、いずれの用字も果実の形態に基づくというのが正しい
- 487 ページ 「ひる」見出し 2 行目
(誤) 水葱の ↓ (正) 水葱なまの薬あつち
- 487 ページ 下段 7 行目
(誤) ユリ科ネギ属 ↓ (正) ネギ科ネギ属
- 493 ページ 下段 1 ～ 2 行目
(誤) サボニンを含まないから ↓ (正) サボニンを含まない(あっても)くく少ない) から
- 496 ページ 下段 7 行目
(誤) 前述の第一の万葉歌にもある ↓ (正) ここでは紹介しなかったが、



● 259 ページに掲載のチョウセンゴシシの写真は、上に、正しくトリミングしたものを示しました。

- 169 ページ 下段 10 ～ 13 行目
(誤) 収載されていて樺皮はしていたようだ ↓ (正) 収載されているが、樺皮と櫻皮はそれぞれ用途を異にしていたわけではない
- 194 ページ 下段 15 行目
(誤) 古代中国の風習だった ↓ (正) 古代中国の医方だった
- 218 ページ 「こけ」見出し 1 行目
(誤) スギゴケ (*Pogonatum*) ↓ (正) スギゴケ (*Polytrichum*)
- 232 ページ 「このてがしは」見出し 3 行目
(誤) 倭人が ↓ (正) 倭人が徒こひろ
- 236 ページ 上段 7 ～ 8 行目
(誤) の菰根が初見であるが ↓ (正) に菰根と出てくるが
- 238 ページ 「さかき」見出し 1 行目
(誤) ツバキ科 (Camelliaceae) ↓ (正) ツバキ科 (Theaceae)
- 245 ページ 「さくら」見出し 1 行目
(誤) バラ科 (Rutaceae) ↓ (正) バラ科 (Rosaceae)
- 265 ページ 上段 18 ～ 21 行目
(誤) 別名であるから、後に沈香と混同してしまったらしい ↓ (正) 別名であったが、後に沈香の別名に転じたのである
- 270 ページ 上段 21 行目 ～ 下段 3 行目
(誤) 葉を強調する場合はしてしたが、小竹をシノ・ササの ↓ (正) 葉を強調するものであった。細竹においては、シノ・ササの
- 280 ページ 「しりくさ」見出し 1 行目
(誤) カヤツクグサ科 ↓ (正) カヤツリグサ科
- 282 ページ 上段 7 ～ 8 行目
(誤) 『圖經本草』の記載を基にすれば ↓ (正) 歴代中国本草の記載によると
- 283 ページ 「すぎ」見出し 1 行目
(誤) スギ科 (Cupressaceae) ↓ (正) スギ科 (Taxodiaceae)
- 304 ページ 「すもも」見出し 1 行目
(誤) スモモ (*Prunus salicina*) ↓ (正) スモモ (*Prunus salicina*)
- 512 ページ 下段 12 行目
(誤) 兔絲(ネナシカズラの類) 有り ↓ (正) 兔絲(マメダオシの類) 有り
- 524 ページ 下段 9 行目
(誤) ユリ科ネギ属 ↓ (正) ネギ科ネギ属
- 551 ページ 下段 3 行目
(誤) 数手散 ↓ (正) 数手散
- 614 ページ 下段 3 行目
(誤) 人をして、好ましむ ↓ (正) 人をして好く歡樂して憂ひ無からしむ
- 621 ページ 上段 20 行目 ～ 下段 3 行目
(誤) なり。正義陸璣「ことがわかるだらう ↓ (正) なり」とあり、中国でも薇はワラビかゼンマイなのかはっきりしなかった。一方、『陸璣詩疏』は「薇の莖葉、皆小豆に似て蔓生し(中略)薬に作るべし云々」といい、豆の巻きひげを拳曲した小児の拳と勘違いして、薇を豆菜としたらしいなお、さらに詳しい補足は左記による著者のホームページをご覧ください。
<http://www2.odn.ne.jp/had26900/index.htm>